



## 特集

### ●インターネット調査の未来を揺るがす課題

—このままでは調査は成立しない “モニターの離脱が突きつける厳しい現実”—

## TOPICS

### ●開催報告:2025 年度 AI・イノベーションセミナー 第3回

### ●開催報告:AI 活用・情報交流会 第9回(12 月度)

Vol.99

2026/1/20 配信

新しい年を迎え、早くもひと月が過ぎようとしています。寒さの厳しい日が続く一方で、少しずつ日差しに春の兆しも感じられる頃となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

年のはじまりは、社会や市場の動きを改めて見つめ直す機会でもあります。生活者の価値観や行動は引き続き変化を続け、テクノロジーの進展とともに、マーケティング・リサーチを取り巻く環境も多様化しています。そうした中で、データを丁寧に読み解き、その背景にある意識や文脈を捉えることの重要性は、これまで以上に高まっているといえるでしょう。

本号では、新年のスタートにあたり、マーケティング・リサーチをめぐる最新の動きや、今後の活動に関する情報をお届けします。2026 年が、皆さまにとって実り多い一年となることを願いつつ、今号もぜひ最後までご覧ください。

[メルマガ登録について詳しくはこちら](#)

## 新年のご挨拶

# 新年のご挨拶



JMRA 会長 五十嵐 幹より 2026 年 新年のご挨拶

JMRA メールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

JMRA 五十嵐幹会長より、新年のご挨拶をさせていただきます。

本年も引き続き、本メールマガジンをご愛読くださいますよう、よろしくお願いいたします。

[詳しくはこちら](#)

## 特 集

このままでは調査は成立しない  
“モニターの離脱が突きつける厳しい現実”

インターネット調査の未来を揺るがす課題

—このままでは調査は成立しない

“モニターの離脱が突きつける厳しい現実”—

JMRA インターネット調査品質委員会では、インターネット調査パネルを保有する主要 5 社を対象に、2013 年より毎年モニターの状況に関する指標をモニタリングし、その結果を公表してきました。今回は、2025 年 10 月に実施した最新調査のデータを公開します。

近年のインターネット調査を取り巻く環境下では、調査の実施そのものが難航するケースが見られるようになり、回収力の低下が年々深刻さを増しています。各社が懸命な取り組みを続けているものの、全体としては厳しい状況が続いています。

今後もインターネット調査を有効な調査手法として維持・発展させていくためには、業界全体として調査の運用ルールを根本から見直し、早急かつ実効性のある対策を講じていくことが求められています。

[詳しくはこちら](#)

## TOPICS

参加無料・AIイノベーションセミナー<第3回>

開催報告

JMRA リサーチイノベーション委員会主催

リサーチツールにおける  
自動化・AI活用の現在

2025 12/4 木 12:00-12:45

JMRA  
カンファレンス  
振り返り

SPECIAL

株) アンド・ディ代表 / JMRA理事  
佐藤 哲也

開催報告: 2025 年度 AI・イノベーションセミナー 第 3 回

リサーチツールにおける自動化・AI 活用の現在

JMRA リサーチ・イノベーション委員会では、2025 年 12 月 4 日に第 3 回 AI・イノベーションセミナ



一を開催し、JMRA 理事の佐藤哲也氏(アンド・ディ)が登壇しました。

今回は自動化の概念の捉え方、生成 AI の特性や課題、調査プロセスにおける AI 活用の具体例、倫理面や機密情報の取り扱いに関する議論などを幅広く網羅した上で、リサーチ業務の中で自動化すべき領域とそうでない領域の違い、AI の確率的挙動に伴うハルシネーション問題、AI 活用におけるエキスパートの役割、LLM(大規模言語モデル)の特徴や使い方、調査会社とリサーチャーに求められる対応等について課題共有が行われました。

最新の技術を用いた自由回答の自動分類や、レポート分析機能等が紹介され、今後の方向性と可能性が示唆される内容でした。

詳しくはこちら

## TOPICS



### 開催報告: AI 活用・情報交流会 第9回(12 月度)

2025 年 12 月 10 日、インターネット調査品質委員会の主催による第 9 回の「AI 活用・情報交流会」が開催されました。

前半では、直近の生成 AI の進化に関する話題や、リサーチにおける AI 活用が「業務効率化」から「拡張ツール」、さらに調査を代替しうる「データ生成(合成データ)」のフェーズへ移行しつつある現状を紹介しました。

後半では、AI ペルソナのツールである大日本印刷(DNP)の「ペルソナインサイト」の紹介が行われました。

人間には聞きにくい本音を引き出したり、調査の準備段階での仮説精度を高めたりする「壁打ち相手」として、リサーチャーの強力なパートナーになり得る可能性が感じられ、活発な質疑が行われました。

今後もリサーチャー同士の有用な情報交流の場として、定期的に開催をしていきますので、次回以降もご期待ください。

[詳しくはこちら](#)

連 載

## JMRA マーケティングデータ・ストレージ ピックアップセレクション

最近 JMRA マーケティングデータ・ストレージに掲載された会員社の自主調査から、ウェブ・メルマガ委員会が精選した自主調査をご紹介します。

### 今月の注目調査

#### ●冬の時期に食べる人気の鍋の素ブランド は？鍋料理の実態調査

(2025.12.10 (株)マーケティング・リサーチ・サービス)

冬の鍋料理に関する実態調査の記事です。冬の時期の鍋の喫食頻度や鍋つゆの種類、シメに使う食材、市販の鍋の素のブランド認知や使用実態などについてアンケート結果から分析しています。

[詳しくはこちら  
\(JMRAマーケティングデータ・ストレージ\)](#)

### 今月の注目調査

#### ●「日本人の国内旅行とインバウンドの影響」 についての調査

(2025.12.18 (株)マーケティングセンター)

インバウンド増加が日本人の国内旅行計画に与える影響を調査した記事です。旅行目的や重視するポイント、訪日客増に伴う行き先の変更や断念した観光地、理想の冬の過ごし方など、近年の旅行意識の変化を探ります。

[詳しくはこちら  
\(JMRAマーケティングデータ・ストレージ\)](#)

## 連載

What's happened?

### おすすめ記事をピックアップしてご紹介

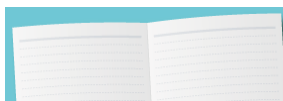


今月の注目記事

●なぜ、ハウス食品は“ルウの混ぜ合わせ提案”をしたのか？

顧客体験から価値を再設計した挑戦

詳しくはこちら  
(外部サイト:MarkeZine)



今月の注目記事

●AIと共に起こすクリエイティブ革命。

「大量制作×効果予測」の実現と問われる「法と倫理」の矜持

詳しくはこちら  
(外部サイト:MarkeZine)

## 教育講座・セミナー案内



マーケティング・リサーチ エキスパートコース

多変量解析法の利活用講座

2026年1月29日(木)・2月4日(水)

### ●マーケティング・リサーチ エキスパートコース

多変量解析法の利活用講座 ～予測要因分析と構造分析の利活用～

本講座では、多変量解析の手法である「予測要因分析」と「構造分析」について学習します。

マーケティングの視点からは、検出された各要因(「独立変数」、「説明変数」)のどの要因が、どのように消費者の購買態度・行動(「目的変数」、「従属変数」)に影響を与えているのかが判明しますので、マーケティング戦略に大いに活用することができます。

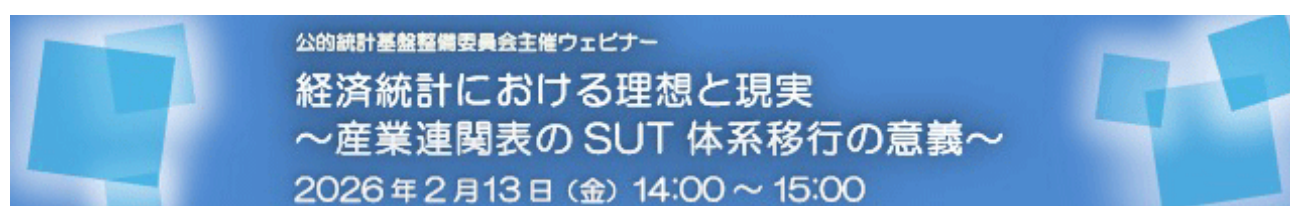
また、消費者の態度・行動の背景にあり、その基となる複雑重層的な要因構造を探索・究明することは、製品・サービスのターゲット層を見出し、そのターゲットをどのようなコンセプト、どのような素材や効能(コンセプト付きプロダクト)で攻略するのかというマーケット戦略の構築に大いに役立つと考えられます。

そのため、クライアント・調査会社双方のマーケティング・リサーチ計画・分析担当者にぜひ受講す

ることをお薦めします。また、コンピュータ上で解析モデルを運用する担当者にとっても、本講座は作業内容の理解と品質向上に役立つため、受講をお薦めします。

- ・日程:2026 年 1 月 29 日(木)、2 月 4 日(水) 各日 10:00～16:00
- ・会場:JMRA 研修室

[詳しくはこちら](#)



●2025 年度 公的統計基盤整備委員会主催ウェビナー 第 3 回

「経済統計における理想と現実～産業連関表の SUT 体系移行の意義～」

国民経済計算(GDP 統計)や産業連関表が求められている背景や、これらの推計のために実施される統計調査で国が把握したいもの、現実的に把握できるものと概念上得たいものの関係などを説明し、統計調査にご報告いただく意義や課題について取り上げます。

- ・日程:2026 年 2 月 13 日(金) 14:00～15:00
- ・会場:Zoom ウェビナー

[詳しくはこちら](#)





## ●AI 活用・情報交流会(第 10 回 2 月度)

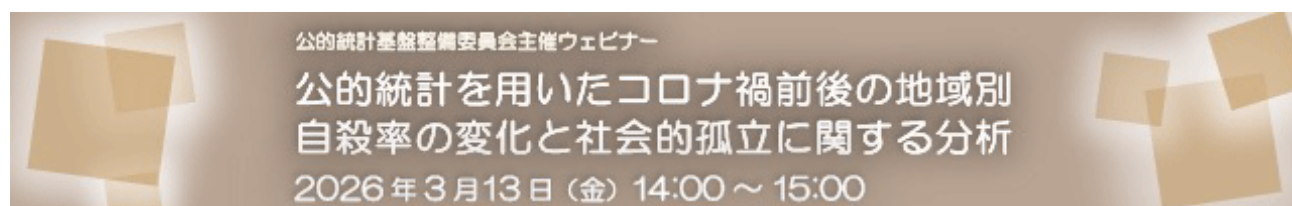
次回のインターネット調査品質委員会の主催による第 10 回の「AI 活用・情報交流会」は、2026 年 2 月 18 日(水)18:30 より開催します。

2 月度は、AI とリサーチについての最新動向の共有とともに、(株)HARVEST 様から、「データ培養」という調査データの統計的な性質を踏襲しながら多様なデータを生成し、高密度なサンプル空間を構築する技術、その活用事例などについてお話をうかがいます。ぜひお気軽にご参加ください。

・日程:2026 年 2 月 18 日(水) 18:30～20:00

・会場:Zoom ミーティング

詳しくはこちら  
(外部サイト:peatix)



## ●2025 年度 公的統計基盤整備委員会主催ウェビナー 第 4 回

「公的統計を用いたコロナ禍前後の地域別自殺率の変化と社会的孤立に関する分析」

本講演では、コロナ禍の前後で自殺率がどのように変化したのかについて、「地域における自殺の基礎資料」などの公的統計を用いながら、地域別の動向を把握・分析する方法をご紹介します。特に、統計データの可視化を中心に、公的統計を読み解く際のポイントや、分析を進めるうえで生成 AI をどのように活用できるかといった実践的な視点も交えて解説します。

また、社会生活基本調査を活用し、自殺と社会的孤立との関係について、公的統計を組み合わせる際の考え方やアプローチについても取り上げます。

なお、社会的孤立との関連分析は、個票データやオーダーメイド集計に基づく分析事例の紹介にとどまり、具体的なデータ活用方法の詳細な解説は行いません。

・日程:2026 年 3 月 13 日(金) 14:00～15:00

・会場:Zoom ウェビナー

詳しくはこちら



## お知らせ

### ●JMRA が後援するイベントのご案内

JMRA では、市場調査業界のドメイン拡張と関連業界とのコラボ促進を目指し、さまざまなイベントへの出展・後援を行っています。

今後も各主催団体と連携し、共同研究発表など、お互いのコンテンツをジョイントしていける場を拡張していく予定です。



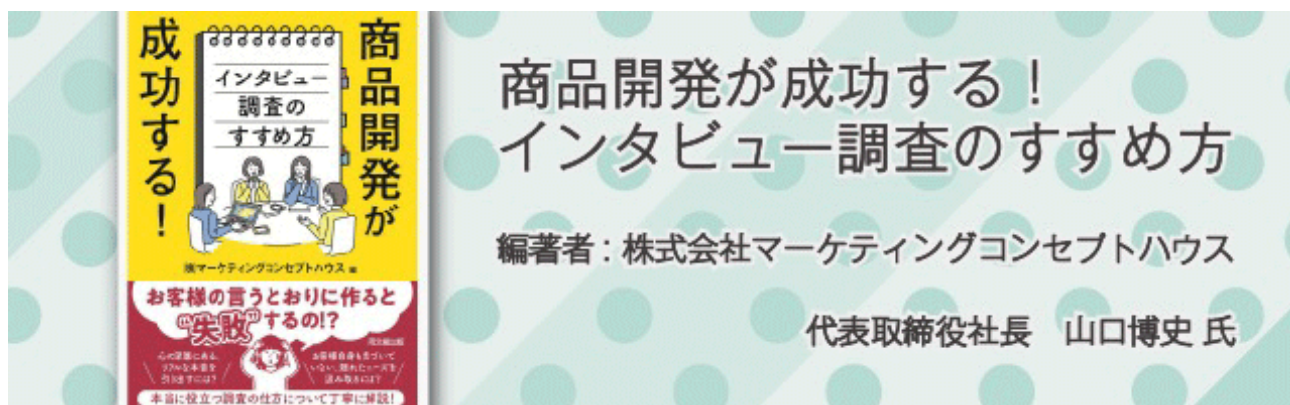
### 【マーケティング・テクノロジーフェア 東京 2026 のご案内】

マーケティング、データ活用、DX を支える最新テクノロジーが集結する「マーケティング・テクノロジーフェア 東京 2026」が開催されます。本フェアでは、マーケティング活動の高度化を支える多様なソリューションや事例が紹介されます。

本イベントにおいて、JMRA の和田事務局長が登壇します。講演では、マーケティング・リサーチの視点から、データ活用が企業や社会の意思決定を支えてきた役割を振り返りつつ、マーケティング・テクノロジーの進展により求められるリサーチの在り方や責任について整理します。あわせて、AI などの新技術をリサーチ領域へどう活用していくのか、新産業ビジョンや改訂綱領の考え方を交えながら展望します。

- ・名称: マーケティング・テクノロジーフェア 東京 2026(第 14 回)
- ・日程: 2026 年 2 月 26 日(木)・27 日(金) 10:00~17:00
- ・会場: 東京ビッグサイト東 7 ホール

詳しくはこちら  
(外部サイト: マーケティング・テクノロジーフェア東京)



## ●新刊のご案内『商品開発が成功する！インタビュー調査のすすめ方』

JMRA 賛助個人会員の山口博史氏(株式会社マーケティングコンセプトハウス代表取締役社長)の新著(編著)が出版されました。

商品開発やマーケティングの成功率を高めるための方法と理論的根拠解説を具体的な成功事例や失敗事例を交えて紹介しています。

- ・編著者:株式会社マーケティングコンセプトハウス(山口博史)
- ・タイトル:商品開発が成功する！インタビュー調査のすすめ方
- ・定価:2,500 円+税
- ・出版社:同文館出版
- ・発売日:2025 年 11 月 25 日

詳しくはこちら  
(外部サイト:同文館出版)

---

## ●2月号は2月17日(火)発行予定です

---

◆このメールはメルマガをご登録されている方に配信しています。

◆配信停止を希望される方は こちらよりお願いいたします。

◆このメールは送信用アドレスから配信しているため、ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆プライバシーポリシーは こちらをご覧ください。

◆配信元:一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-9-9 石川LKビル 2 階

<https://www.jmra-net.or.jp/>

[office@jmra-net.or.jp](mailto:office@jmra-net.or.jp)

あなたの中に未来がある。